

緑の地球

GREEN EARTH

地球環境のための国境をこえた民衆の協力



12月、カササギの森に雪が積もった。この冬の大同は格別寒さが厳しい

Contents

- 運営懇談会レポート P 2
- 春の黄土高原ワーキングツアーご案内 P 2
- バイオセラピー実践記 P 4
- 李向東の話(1) P 4

2010.1

131

認定特定非営利活動法人 緑の地球ネットワーク

GEN の活動に積極的なご参加を！ 運営懇談会レポート

昨年11月、GENの今後の活動について考えようと、運営懇談会を開催しました。大阪で11月14日、東京で11月19日、それぞれ37人、30人が参加しました。東京会場の様子はネット中継されて、5人アクセスがありました。

それぞれの会場で、参加者のGENに対する関心、熱意を感じる発言・提案があり、新しい活動につながりそうな動きもでてきています。

一方で、GENの活動の全体像がよくわからない、状況がみえないという意見もありました。わかりやすくまとめることがむずかしい活動内容になっているのも事実ですが、HPのリニューアルなど、努力していきます。

運営懇談会で提案のなかから、動きだしているもの、参加していただきたいものを少し紹介します。

【You TubeにCMを！】

You Tubeは、ご存じインターネットの画像投稿サイトです。GENのワーキングツアーのCMをつくって投稿しちゃおう、というアイデアです。ワーキングツアー参加経験者のみなさん、売り込みにつかえそうな写真、動画、また、心に残るエピソードなど、GEN

事務所あてぜひお送りください。また、ビデオ・CDからの編集作業を手伝っていただける方もご連絡を！

【大同- GEN方式研修会】

大同におけるGENの緑化協力はかなりユニークな事例ではないか、それを評価・分析していくと、ひとつのモデルになるのでは、というアイデアです。2月の関東 brunch 月例会で、この『大同- GEN方式』をテーマにする予定です。日時は2月20日(土)15時から、立教大学池袋キャンパスにて。詳細は近日中にHPにアップします。電話でのお問合せはGEN事務所まで。また、3月の関東 brunch 月例会は3月13日(土)を予定しています。

【伊豆プログラム】

本号に寄稿していただいている藤原さんと関東 brunch を中心に、伊豆でアウトドアのプログラムを組もうというアイデアがでています。

* GEN 関東 brunch は、関東在住の GEN 会員・ワーキングツアー経験者などを中心とした自発的な集まりで、月例の勉強会を、主に立教大学で開催しています。どなたでも参加できます。関東 brunch の諸活動の打ち合わせ・

広報は、メーリングリストを中心におこなわれています。参加ご希望の方は、GEN事務所までメールでご連絡ください。

【大学との連携】

学生の参加をうながすために、ワーキングツアーのチラシ・ポスターなどを作成して、大学関係者の協力をえてキャンパスで広報していただきます。すでにご連絡をいただいている方にはお送りしていますが、準備ができ次第、事務所で把握している大学関係者の方にもお送りしますので、ご協力いただきますようお願いいたします。

【ワン・ワールド・フェスティバル】

しばらくお休みしていた大阪のワンワールドフェスに、久しぶりでブース出展することにしました。日程は2月6日(土)、7日(日)。詳細は8ページで紹介しています。ブースにつめてくれるボランティアスタッフを募集中です。内容は、ブースを訪ねてきた人にGENの活動を紹介したり、絵はがきや切り絵を販売することです。希望者はGEN事務所までご連絡ください。

運営懇談会のメーリングリストでは、みなさんからのさらなるご意見・ご提案をお待ちしています。加入ご希望の方はGEN事務所までメールでご連絡ください。(東川)

2010 春の黄土高原ワーキングツアーご案内

北京オリンピックや新型インフルエンザで、黄土高原ワーキングツアーが年に1回しか実施できないことが続きました。今年は上海万博。万博の成功もですが、今年こそは無事、春と夏のワーキングツアーが実施できるように願います。

今春は例年より少し遅くし、期間を1日短縮しました。ホームステイはありませんが、目玉は霊丘の南天門自然植物園です。樹木の年々の成長を測定する調査区、またその周辺での植生の回復のようすを、ぜひご自身の目で確かめてください。

●日程：2010年4月3日(土)～9日(金)6泊7日

●費用：135,000円(国際航空運賃、中国国内の交通費/食費/宿泊費を含む。燃油特別付加運賃・空港使用料〈あわせて7,000円程度〉、GEN年会費〈一般=12,000円、学生=3,000円〉、旅券取得費用、個人でかける旅行保険

料、個人行動時の費用は含まない)※中国国際航空利用
※関西空港発着 ※成田便利用希望の方は航空運賃差額(25,000円程度)が別途必要です。

●訪問先：中国山西省大同市(北京経由)

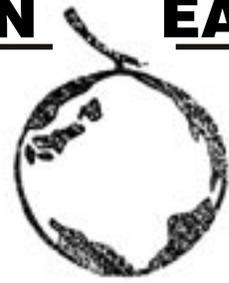
●定員：35名(定員に達し次第締め切ります)

●最少催行人数：12人

★参加ご希望の方は、まずGEN事務所までご連絡ください。(株)マイチケットから、案内・応募書類をお送りします。



エコポイントをGENに寄付しよう！ [たんすケータイ] も回収中



昨年から家電のエコポイント制度が実施されていますが、みなさん、使わずに溜め込んでいるポイントはありますか？ 特にお目当ての商品やサービスがなければ、ぜひポイントをGENに寄付してください！ 公募で選ばれた環境保全活動をおこなっている団体にポイントを寄付することができ、GENもその対象として認められました。事業者コードはK085です。詳しくはお

店で配布しているエコポイントのパンフレットか、<http://eco-points.jp/>をご参照ください。

また、これらの団体を寄付対象にした、[たんすケータイあつめタイ]キャンペーンも実施中です。使用済み携帯電話本体・PHS本体・データ通信カード本体を協力店舗で回収して応募券を渡し、応募すると抽選で商品券などが当たるものですが、はず

れ1口を1円として、環境保護団体に寄付することができます(賛同者のみ)。こちら、使わなくなったケータイがご自宅で眠っている方、ぜひご協力ください。協力店舗は、家電量販店、総合スーパーなど限られています。<http://tansu-keitai.jp/>でお調べいただくか、0120-451-112(2010年3月31日まで、受け付け時間9時～18時)までお問い合わせください。

いますぐできる GEN への協力

■会員になってください！

まだ会員になっていない方、ぜひ会員になってGENの活動をささえてください。また、環境問題や国際協力に関心をお持ちの知り合いに、会報の購読などをおすすめてください。会費は4～5ページの下部をご参照ください。なお、GEN年会費には会報購読料がふくまれています。

■会報を購読してください！

GENの活動に関心はあるけれど会員になるのはちょっと、という方は、会報『緑の地球』を購読してみませんか。年間購読料2,000円。

■みみずく基金にご協力ください！

緑色地球ネットワーク事務所直轄プロジェクトの運営を支えるために、1口1万円寄付を募っています。A. 環境林センター、B. 霊丘自然植物園、C. 白登苗圃、D. かけはしの森、E. カササギの森の5つからお選びください。指定のない場合は、事務局で決めさせていただきます。

■緑化基金、運営カンパもむ

金額はいくらでもけっこうです。GENへの寄付は、税制上の優遇措置の対象となります。みなさんの応援をお願いします。

*みみずく基金、緑化基金の20%は事務管理費になります。

■絵はがき『黄土高原の花』ご利用く

ださい

黄土高原の色あざやかな花ばなを絵はがきにしました。Eメールでは味気ない、あたたかいメッセージを送りたい、そんなときにぜひご利用ください。絵はがき『黄土高原の花』8枚組・300円(送料別途。5セット以上送料サービス)

絵はがき『中国・黄土高原』撮影：橋本紘二 春/夏/秋・冬/緑化 各8枚組・300円(送料別途。5セット以上送料サービス) 継続販売中です。

■ビデオ『よみがえる森』ご購入を！

沙漠化、水不足など黄土高原の環境問題とGENの緑化協力を30分にまとめました。価格は5,000円、GEN会員価格は4,000円(送料別途)です。教材にも好適。小学校高学年から。

■古切手を集めています

普通切手、記念切手、外国切手なんでもOK。周囲を1cmほど残して切り取ってお送りください。未使用切手も大歓迎です。

■書き損じはがきを集めています

書き損じはがき、古い未使用のはがきを回収しています。通信費にあてています。

■外国コイン・商品券などを集めています

使うあてのない図書券、文具券、各種商品券、外国コインがありまし

たらお送りください。

■ボランティア募集

会報発送や事務所の手伝いなどのボランティアを随時募集しています。ボランティア可能な曜日、時間帯をご連絡ください。来ていただきたいときにGEN事務所から連絡します。

* * * * *

【GENは認定NPO法人です】

2005年6月から国税庁から認定NPO法人の認定を受け、09年6月から第3期目の認定が決まりました。今回の認定期間は5年間です。

GENへの寄附金は寄付金控除の対象となります。個人の場合は「寄付金額-5,000円」を所得金額から控除することができます。法人の場合は損金に算入することができます。相続・遺贈による寄附は相続税の課税対象から除かれます。

GENの場合寄付金となるのは、緑化基金・運営カンパ・みみずく基金と、会費のうち1口以上の部分・賛助会費から12,000円をひいた金額です。くわしくはお問い合わせください。



バイオセラピー実践記

藤原 國雄 (GEN 会員・高校非常勤講師)



植物を育てることで生徒も成長し、幼稚園児を指導するまでになっている

私の勤務校は長期欠席生徒受け入れ校となって今年で9年目を迎える。どのようにしたらそのような生徒を高校にソフトランディングさせることができるか模索してきた。そこでヒントになったのがGENのワーキングツアーに参加した私の感想である。過日、東京でおこなわれた運営懇談会でワーキングツアーへの参加理由を「采涼山の松に逢いたいから」と答えた。2000年に植えたあんな小さな苗が、厳しい気候にも負けず、今では私の背を追い越した。その実感を教育に生かせないだろうかといった気持ちから、教科を組み立てた。長期欠席の生徒も「学校で自分の野菜が待っている。管理をすれば植物もそれに答えてくれる」という気持ちになって登校をするようになるのではないだろうか。園芸植物の栽培の過程で、自己肯定感やコミュニケーション能力、ソーシャルスキルを高められると考え「バイオセラピー」を選択科目としてカリキュラムに位置づけた。

園芸植物には収穫できるといった面の他に、手入れをするほどその植物は期待に応え、成長してくれるという側面がある。「自分が管理しないと、この植物はだめになる」といった感覚、その植物が期待に応えて成長し、それを

収穫して他の人々がそれを「美味しい」と評価してくれた時にその人間は達成感や自己肯定感を再認識することができるなどのセラピー効果も期待できる。また植物の成長過程は人のそれに似ており、植物の成長と併せて、自分も成長することができる。バイオセラピーの実践は、圃場(畑)

を作ることから始めた。最も重要な要素は個人分担圃場である。生徒1人あたり1坪の圃場を割り当て、生徒の名前を書いた名札を設置した。まずは植物と生徒との関係をとらせるように配慮した。

夏作の作目としてトマト、枝豆、ス

イートコーンとした。これは簡単に食べることができ、収穫の喜びが大きいなどの理由から選択した。保護者の感想として「毎日、野菜の世話(作業)や成長の状況などを楽しそうに話してくれる」「こんなに何かを一生懸命する姿を久々に見るのができて嬉しい」などがあった。

秋作はブロッコリー、ダイコンと自分が作りたい野菜を選択させた。生徒が成長や生命力を感じとれる作目を選んだ。また自分で栽培したい植物を選ばせたのは、生徒の「できること探し」を支援するためである。秋作には草花の栽培も取り入れた。1年間実践した成果として欠席日数が激減した。ほとんどの生徒が皆勤かそれに近い。また自信を持てたため他の教科の評価にもその影響が現れている。また生徒の感想に「野菜作りはとても大変だけど、自分の作った野菜を収穫したり、食べたりに感じる達成感や充実感がある」「植物や虫が身近な存在になった。人も自然の一部にすぎないと感じた」などと書かれている。今では2年生が幼稚園に出かけ、食育教育の一環の野菜栽培をインタープリターの幼稚園児に指導している。

李向東の話 (1)

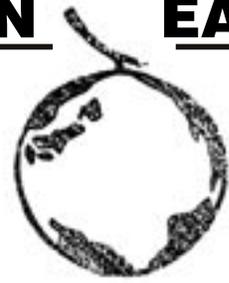
霊丘県の“南天門”自然植物園のヌシが李向東だ。私の目には、とても変わった人物に見える。どういう生い立ちで、このような人間ができたのか、興味しんしんだった。昨年末、私たちが大同を訪れたとき、李向東が訪ねてきてくれたので、予告なしのインタビューをはじめた。通訳は王萍に頼んだ。(高見邦雄)

私が生まれたのは1953年、農曆(旧暦)の12月6日です。陽暦の何月何日になるか、私は知りません(注・換算表で調べると1954年1月10日だった)。生まれたのは霊丘県下関郷楊庄村です。遠田先生、高見さんとナラを探しにいったことがあるでしょ、あの村です。

両親は農民で、私は5人きょうだいの長男です。弟は霊丘の県城で教師をしています。妹が3人いて、上の妹は大同の燕子山炭鉱におり、主婦です。2番目の妹は県城で教師をしています。

高見さんにあげたあの本を書いた妹です。下の妹も県城にいて自営業です。

8歳のときに私は小学校にはいり、小学校を卒業するまでずっと村にいました。そのころの小学校は4年生まででした。小学校の卒業がプロレタリア文化大革命がはじまった年で、その4年間だけ勉強らしい勉強をしました。国語と数学だけです。ですから、いまのしごとをするうえでとても困難を感じています。やんちゃだったと思います。でも、それほど極端じゃなかった。



郷政府のある下関村で初級中学に進みましたが、文化大革命のために授業はありませんでした。3年で卒業し、その後、高級中学に進みました。入学試験はありましたが、形ばかりです。同級生のなかには大学に進学したのものですけど、このときも私はあまり勉強しませんでした。学校は教科書を配っただけで、教えてはくれません。教科書を自習しました。物理、歴史、地理、数学、漢語などです。2年間ですから1974年に卒業したことになります。

そのあと2年ほど蚕の関係のアルバイトをしました。霊丘県には解放後、優良品種の蚕の種(卵)を生産する工場があり、養蚕の歴史は長かったのです。でも、やり方はよくありませんでした。リョウトウナラなんかの木を1メートルほどの高さで切り、そこから若い枝を萌芽させ、その葉を蚕のエサにしました。こういうやり方が木にとっていいわけがありません。長続きはしませんでした。このときが私にとって樹木との最初の出会いです。

1976年に霊丘、大同、陽高の各県で果樹技術者養成の制度ができ、それぞれ10名の募集がありました。私もその試験を受け、霊丘県蚕桑果樹工作ステーションに採用されました。賃金は月に36元で高くはありません。大卒の専門の技術者と組んで、現場で勉強しながら果樹農家を指導するわけです。専門の技術者を補助する農民技術者です。そのころの霊丘県には19の郷があり、農民技術者は10人ですから、1人が2つの郷を担当しました。私が受け持ったのは紅石楞と上寨です。農民技術者はそのように郷に固定されますが、専

門の技術者はときどき交替していました。

私の上の娘は29歳ですから、結婚して30年以上になります。そのしごとについてときはもう結婚していました。相手は同じ村の幼なじみで1歳年下です。結婚してからも楊庄村に家がありました。

農民技術者になったあと私には理想がありました。ちゃんとしたモデルになる村をつくることです。最初にいった村は上寨鎮の劉庄村です。村の幹部とうまくいかなかったので、ここはあきらめました。つぎにいったのが紅石楞郷の上北泉村です。1978年よりあとです。農家に泊り込んで果樹の指導をするわけですね。各家を転々として。農民と同じものを食べ、同じ家に住んでいました。つれあいは楊庄村で暮らしており、私は1か月に1回くらい帰っていました。自転車です。「環球」という自転車を買ったんですね。(注・地図で距離を調べると、片道40km前後になる)

その当時、この一帯でクルミを栽培できるのは霊丘県の南山区だけでした。クルミを栽培するために上北泉村を選んだのです。クルミは生育が速く、3年目には実がなりますので、みんな積極的にとりくみました。その後、樹種をふやし、最終的には14種類になりました。クルミ、モモ、リンゴ、ナシ、カキ、アンズ、スモモ、サンザシ、ナツメ、ブドウ、サンショウなどです。いちばん成功したのはモモでしょう。リンゴは腐爛病が発生してだめでした。この地方ではこの病気を抑えられません。農民の積極性もなくなります。

上北泉村に鄭海水という党書記がいました。いまも彼は党書記です。年齢が同じくらいで、なかなくなりました。親しい関係になったので、「おくさんと呼び寄せ、自分たちの村に住んだらどうか、戸籍も移せ」と言ってくれました。自分で家を設計し、この村に建てました。そして1998年

に上寨に移るまで、上北泉村で暮らしたのです。

村の青年たちで林業科技小組をつくりました。最初に果樹を植えたのはいまポプラが植わっているところで、唐河の川岸です。あの村には水力発電用の水路がありますが、水路のうしろの谷にサンザシを少しだけ植えました。水路の手前には平らな台地が2つあります。西側の台地は主にモモです。東の台地にはナシ、ナツメ、スモモ、リンゴなどを植えました。村の指導者や私がいい成績をあげたので、郷や県の人たちから高い評価をもらいました。

私の戸籍は農村戸籍です。都市戸籍を買わないかという話もあったのですが、そうしませんでした。上北泉村に戸籍を移したので5畝(33a)の畑をもらいました。そこでブドウ、ナシ、リンゴ、モモなどを栽培して、収入をえるようになりました。1年に2万円を超えましたので、国からもらう賃金を大幅に上回りました。村からはもらっていません。県城の市場で売ったり、道路のわきで売ったりしました。私は栽培するだけで、販売の任務は妻がおいました。わりと上手に売ったのです。美人だから? 関係ないとはいえないでしょうけど(笑い)。

ほかの村も回っていたんですよ。上寨鎮では、24か所の果樹園を担当していました。大きな村にはたいてい果樹園があります。自転車で回っていました。環境林センターの技術者、王君祥とはそのころ知り合ったのです。彼は上寨から2里(1km)ほどの新建村の出身です。

8年前に私は内部退職になりました。農民技術者はみなそうなったのです。組織の人数が多すぎるので一部の人が早めに退職し、そのかわりに賃金は保障されるのです。最初は36元でしたが、その後だんだんと昇給し、いまでは2,000元近くになっています。定年になるまでそれはつづきます。(つづく)



植物屋のこぼれ話 (続編) その28

立花 吉茂 (GEN 代表・花園大学客員教授)

●温暖化で狂う動・植物たち

先々号(その26)でセミたちが狂いはじめたことを下記の書物から引用して書いた。今回は植物たちについて同じ考察をしてみよう。

『日本生物季節論』大後美保・鈴木雄次共著、1947年発行 北隆館

植物はサクラのように暖かい南から北へと季節を追って開花していくものとその逆のものがある。秋に咲く花(または紅葉)はその逆になるものが多い。すなわち、寒さの早い地域で早くなり、その反対のものも存在する。異

常気象になるとその植物の古里が南から来たか、その逆の北方系か判断しやすいが、いまの温暖化はどうだろうか。

●サザンカはどうなったか?

サザンカを見てみよう(図1)。少し読み取りにくいのが10月10日から11月20日にかけて咲く。しかしこの花は冬の寒さに耐えて春にも咲くことがある(ただし春サザンカという品種は例外的に冬から春に咲く)。この図1は「咲き始めた日」を示しているから、開花最盛期はもっと遅くなるが、秋は春のように日に日に暖くなるのではなく、日に日に寒くなるから開花最盛期や残り花は年を越すことがある。さて、温暖化した現在この花はいつ咲いているだろうか? わが家のサザンカは20~30年以前には、11月10日~20日に咲き始めていたが、近年11月下旬から咲くようになった。昔、小学唱歌に「サザンカ、サザンカ咲いた道」というのがあったが、「焚き火だ、焚き火だ、落ち葉焚き、あたらうか、あたらうよ、北風ピーポー吹いている」というような光景はもう見られない。北風が吹いて寒く、焚き火にあたりたい、というような気候ではなくなったようだ。

さて、温暖化した現在この花はいつ咲いているだろうか? わが家のサザンカは20~30年以前には、11月10日~20日に咲き始めていたが、近年11月下旬から咲くようになった。昔、小学唱歌に「サザンカ、サザンカ咲いた道」というのがあったが、「焚き火だ、焚き火だ、落ち葉焚き、あたらうか、あたらうよ、北風ピーポー吹いている」というような光景はもう見られない。北風が吹いて寒く、焚き火にあたりたい、というような気候ではなくなったようだ。

●モミジの紅葉は?

モミジの紅葉が遅くなった、こんな声をよく聞くが、この書物のデータを見ると(図2)北の方で10月20日にはじまり、南の方で11月20日にはじまる。モミジは落葉前の現象だから暖かければいつまでも緑でいるのは話がわかりやすい。

京阪神では11月10日~20日の間であったのがいまでは11月20日以後になっている。暖かくてなかなか紅葉しないようだ。

●ヒガンバナは?

ヒガンバナは渡来植物だから難解だが、この図では(図3)9月10日から20日までに咲き始めることになっている。咲き終わりの図がないので開花期間がはっきりしないが、いまでは9月1日頃から9月20日頃まで花を見ることができる。このような球根草花はいったん咲くと温度が低い方が長らく咲いているから、温暖化で早く終わるかと思いきや、どうやらそうでもない様子である。

読者諸氏の住む地域の開花前線の情報があったら、あるいは感じておられることがあったらぜひお教えいただきたい。

黄土高原をうたった曲がCDに! 『黄土高原のあなたへ』 アルバム『旅の途中』収録

2005年の春、ワーキングツアーに参加させて頂きました石岡雅敬です。普段はシンガーソングライターとして全国各地で活動しています。

ワーキングツアーで訪れた際に現地で作詞作曲した曲「黄土高原のあなたへ」が12月23日に発売されたアルバム「旅の途中」に収録されています。

黄土高原で感じた想いを込めて作った曲です。皆様に聞いていただけると嬉しく思います。

またCD印税の一部を緑化基金に協力できることになりました。

ぜひ黄土高原の風を感じてください。

2009年12月23日全国発売
New Album『旅の途中』石岡雅敬
全13曲 ¥2,100 ZXCD029

※『黄土高原のあなたへ 燃える白酒』は5曲目に収録

発売元 ZX RECORDS

販売元 EAST HOUSE

※全国CDショップ、Amazonなどで購入可能です。

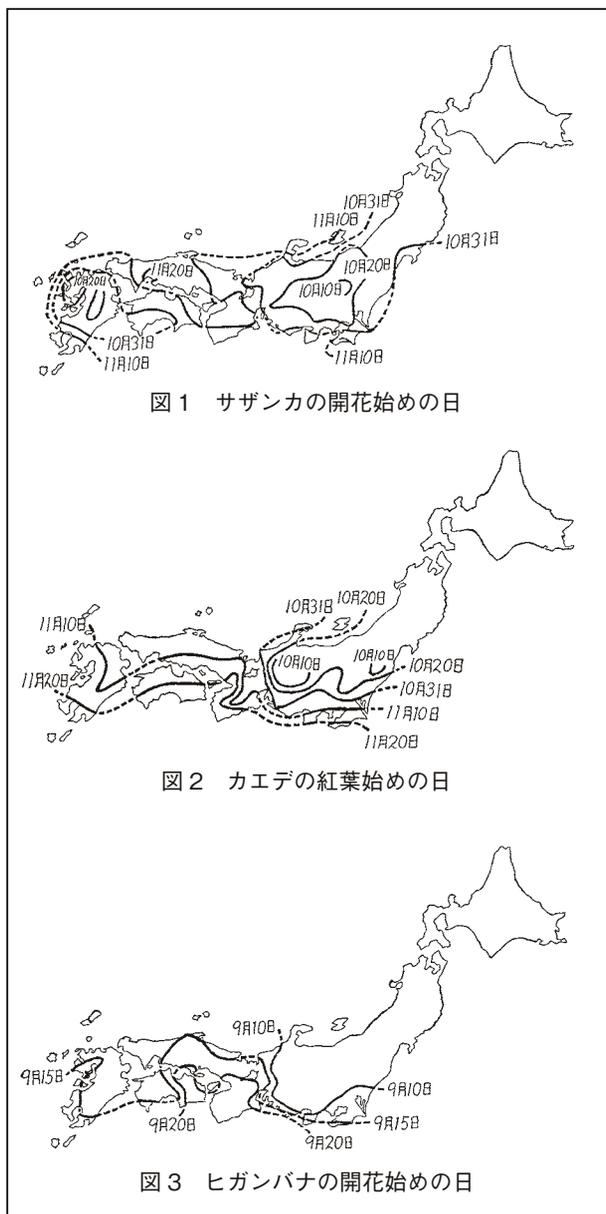


図1 サザンカの開花始めの日

図2 カエデの紅葉始めの日

図3 ヒガンバナの開花始めの日

黄土高原史話〈48〉

匈奴の使者は見破った

宮城谷昌光氏の『三国志』は単行本でいま第七巻目。劉備が蜀に入って、ようやく魏・呉・蜀鼎立の形勢ができあがり、いよいよ佳境を迎えます。

そもそも三国志にはジャンルの異なる二種類あり。一は西晋の寿(233～297)によるレッキとした歴史書『三国志』、他はこれにもとづき明末・羅貫中が小説化した『三国(志)演義』(16世紀)。後者は唐代後半(9世紀)からあった講談・戯曲の流れをうけて、グッと蜀びいきに舵を切るが、その翻訳が元禄年間(1688～1704)に出た湖南文山の『通俗三国志』。それをアレンジしたものが昭和初期の吉川英治『三国志』だから、これらは劉備主役で一貫する。

これに対し、宮城谷『三国志』は、曹操を主役としたところに新味あり。もともと正史『三国志』は、「並みはずれた人物、時代を超えた英傑」曹操に比べ、劉備は「権謀と才略にかけては、魏の武帝(曹操)には及ばなかった」と評しているから、三国志を代表するのは劉備でなく曹操だったわけですが。

ところで、善玉劉備・悪役曹操イメージを定着させた『三国演義』では、劉備は身長184センチと容貌すぐれた正義の人。曹操は161センチで、ずる賢い小男。ちなみに京劇の曹操は、仇役

谷口 義介 (摂南大学教授)

としての強さを出すため、大柄な役者が演じます。横山劇画ではカッコイイが、『蒼天航路』となると度が過ぎる。

では、実際のところはどうか。

正史『三国志』によると、劉備はフィクションよりやや小さめの178センチ。ところが曹操に関しては、一切言及がありません。ただし魏・晋のころのエピソード集『新語』(南朝宋・劉義慶403～444)には、ハッキリ貧相な小男と書いてある。それは「容止篇」に出る話。

曹操が魏王だったとき、匈奴の使者を引見しようとしたが、自分は身体が貧弱なので、遠国の使者を威圧するだけの貫禄がないと考え、体格の良い臣下に身代りさせ、自らは刀を持って玉座の側に立った。

そして引見が終わったあと、人をやつてたずねさせた。

「魏王の様子はどうか」

匈奴の使者は答えた。

「お見受けしたところ魏王は大変立派なお方です。しかし、側に侍立していた人物こそ真の英雄に違いない」

報告を聞いた曹操は、追手を差し向け、この使者を殺させた、と。

曹操が匈奴の使者を斬らせたのは、自分のトリックがばれたのを恥じたか



魏の太祖曹操 (三才図会)

らなのか。「若年より機智があり、権謀に富」(正史『三国志』)んでいた曹操のこと、これしきの失敗で殺させたとは思えません。

では、これほど眼力ある人物を敵国に帰してしまうのを恐れたからなのか。このころ北辺に眼をやると、烏丸・鮮卑・高句が騒乱に乗じて華北に侵入、魏の脅威となりますが、匈奴にかつての威勢なく、216年、南匈奴は魏に来朝。曹操、匈奴の部衆を五つに分ち、領域内に居住させ。かくみれば、この説も成り立たない。

この話自体はアヤシイが、曹操=小男説は信じてよいと思われる。小柄ながら眼光麗、異様な迫力があつたのだろう。

ゆの人の人

ながさと
長郷美比古さん (長崎県)



はないか。ところが、ここは、子どもたちの最高の遊び場となった。いつもいつも笑い声の絶える

ことはなかったのである。「杉の黒い立派な緑、さわやかな匂、夏のすずしい陰、月光色の芝生が、本統のさいわい何だかを教える」ものであるらしい。だから、慶十は毎日毎日、杉の林の前に立ったのだろう。雨にぬれながらじっと立つ姿は、実に印象深い。

とても慶十の域ではないが、毎週毎週、2万本のゲンカイツツジの前に立っている。ここ対馬は朝鮮半島と九州の中間に位置し、大陸渡来の貴重な植物、ゲンカイツツジの自生地である。このところ減少著しいということで、仲間とゲンカイツツジの森づくりを手がけたのが、6年前であった。それからが悩み多き日々の始まりである。雨がほしい、日がほしい、草に負けてはいないかと、次々と悩みが尽きない。慶十ほどには単純明快ではないから、俗念にとられながら、今年も2000本の苗を植えることになる。

ところで、霊丘自然植物園に植えた桃は咲いただろうか。



NIHU 現代中国地域研究拠点連携プログラム
第3回国際シンポジウム
環境問題－中国の未来可能性

- 日時：1月30日（土）13時30分～17時50分、31日（日）9時30分～17時50分
- 場所：京都大学百周年時計台記念館
- 日中英同時通訳・参加費無料
- 主催：人間文化研究機構（NIHU）現代中国地域研究拠点連携プログラム
- 申込：参加者氏名・連絡先を明記してはがき・Fax・E-mailで1月22日までに下記まで。
- 問合せ・申込先：総合地球環境学研究所中国環境問題研究拠点（〒603-8047 京都市北区上賀茂本山457-4 tel. 075-707-2462 fax. 075-707-2509 E-mail: rihn-china@chikyu.ac.jp URL http://www.chikyu.ac.jp/）
- バーツラフ・スミル氏（マニトバ大学）による基調講演のほか、日中の研究者多数による報告・討論が目白押しです。詳しくは主催者HPをご参照ください。30日にはGEN世話人の上

*当欄掲載のイベント情報は掲載時点のもので、その後変更になる可能性があります。主催者にお確かめのうえ、ご参加ください。
*当欄に情報をお寄せください。本紙は奇数月15日ごろの発行で、締切は前月の末です。なお、紙面の都合により掲載できない場合があります。ご了承ください。

田信さんの報告があります。

NPO 黄河の森緑化ネットワーク
写真展 & シンポジウム

黄河の森緑化ネットワークは中国蘭州で緑化協力をつづけています。

【写真展】

- 場所：元町アートギャラリー（2F）
- 期間：2月11日（木）～17日（水）11時～18時（最終日は16時まで）

【シンポジウム】

- 日時：2月13日（土）13時30分～16時30分
- 場所：神戸中華会館7F（神戸市中央区下山手通2-13-9 tel. 078-392-2711 JR・阪神元町駅東口より徒歩8分、JR・阪急三ノ宮駅より徒歩10分）
- 第1部：『黄河の森緑化ネットワーク』紹介・活動報告
- 第2部：濱崎加代子さん（特別出演）によるソプラノの調べ
- 第3部：パネル討論会『中国の緑化とボランティア活動～日本のNPOの役割』
- パネリスト：北川秀樹さん（龍谷大学

教授）／徳岡正三さん（黄河の森緑化ネットワーク顧問）／高見邦雄（GEN事務局長）

コーディネータ：芹田健太郎さん（兵庫県国際交流協会参与）

- 主催：問合せ先：黄河の森緑化ネットワーク（E-mail: kouganomori@s6.dion.ne.jp tel. 078-392-8328）

世界につながる国際協力のお祭り
ワン・ワールド・フェスティバル

- 久しぶりにGENもブース出展します。
- 日時：2月6日（土）10時～17時、7日（日）10時～16時
- 場所：大阪国際交流センター（地下鉄「谷町九丁目」駅、近鉄「大阪上本町」駅） ●入場無料
- 問合せ：ワン・ワールド・フェスティバル実行委員会事務局（〒552-0021 大阪市港区築港2-8-24 pia NPO 2階（特活）関西国際交流団体協議会内 tel. 06-4395-1124 fax. 06-4395-1125 E-mail: onefes@interpeople.or.jp URL http://www.interpeople.or.jp/owf）